遼寧艦編隊は台湾海峡を通り北上、帰路につく

台湾軍の艦艇、航空機が頻繁に出動

環球時報　2017-01-11　07:39:00

阿部信行

（訳者コメント）

12 月 25 日に宮古海峡を通過して南下した空母遼寧の編隊は、1 月 10 日北上を開始し帰路につきました。台湾の海空軍は、所要の警戒監視活動を行いました。
記事によると、11 日夜明け前に台湾海峡を通過する予定とのことです。
関連記事を総合すると、訓練の成果はあまり上がらなかったように見えます。その主な理由は天候です。そのほかに米国を含めた周辺国が大きな関心を払い、事故などが起きれば、政治的効果が台無しになる可能性があったためです。訓練内容が政治的に制約を受けた可能性もあります。
中国としては、大きな事故がなく帰港できれば目的は達成したものと思います。今後成果に関する記事がでる可能性があります。

環球網軍事 1 月 11 日報道　環球時報記者　呉薇
初めての遠洋航海訓練で初期段階の戦闘力を形成した解放軍空母遼寧艦は、10 日南海から北上を開始した。台湾聯合新聞の報道によると、遼寧艦編隊は、10 日夜 9 時”海峡中央線”の西側に沿って台湾海峡通過を開始した。解放軍空母は再び”台湾に接近”した。台湾軍は、高度な警戒態勢を採り、戦闘機、早期警戒機、護衛艦を頻繁に出動させ警戒に当たらせた。台湾軍”国防部長”は指揮所に入った。

報道によると、遼寧艦及び護衛艦艇は 10 日夜、台湾海峡を北上した。航路は”中央線”の西側を維持し、計画では 11 日の夜明け前に海峡を離れ、継続して北上し母港に帰る。台湾”国防部”の軍事スポークスマン陳中吉少将は：”引き続き遼寧艦の動きは掌握する、必要時には正式に情報を発表する”と述べた。民進党の”立法委員”の羅到政は遼寧艦の北上について：”誇張された戦力と実質的な驚異には、大きな開きがある”と述べた。しかし台湾軍全体にとっては、十二分に闘志を奮い起こさせるものとなった。台湾の官員は：台湾空軍は、警戒監視系統を動員し、全力で遼寧艦の動きを監視した。その中で澎湖島馬公の台湾軍 146 艦隊は”成功”型護衛艦を出動させ、”中央線”東側の位置で、解放軍艦隊の北上に随伴した。空では、P-3C 哨戒機、IDF 及び F-16 戦闘機が緊急発進した。合わせて E-2C 早期警戒機が海峡内の艦艇及び航空機の動きを監視した。台湾軍の各警戒監視系統は、”迅安”データリンクを通じて、遼寧艦の動きを台北の”衡山指揮所”に伝送した。”国防部長”は指揮所に入った。
聯合新聞網の回顧によると、2013 年 11 月遼寧艦は台湾海峡を通過して南下し、南海艦隊に合流して冬季訓練を行った。同年 12 月 31 日北上を開始し、2014 年

1 月 1 日、台湾海峡を通過した。この 2 回の通峡はいずれも”海峡中央線”の西側を通過しており、また海峡水域では戦術課目の訓練は行っていない。

以上